

令和7年9月25日（木曜日）

佐伯市立蒲江翔南学園 檜原 怜先生の授業です。

授業の単元は、第1学年「1次方程式」。個数と代金に関する問題といった身のまわりにある事象について考える場面です。

導入では、本時で扱う問題を学習支援アプリにて生徒に送信し、生徒が問題把握を確実に行うことができるよう、佐伯市全体の取組である「わたチェック」で分かっていることと尋ねられていることの確認を行わせていました。その際、生徒は確認した事柄について、端末上に線を引いたり、ノートに書きだしたりとそれぞれに合った方法で取り組む様子が見られ、主体的な学びにつなげるよう、それぞれの生徒にあった学習方法を選択させるという工夫がなされていました。

また、個人で考えをもたせた後、班での活動に取り組みせ、グループで考えを練り上げる様子が見られました。互いに自分の考えを、図や言葉の式等を用いて説明をすることで、自らの考えをより確かにするとともに、問題解決に困りを抱えている生徒も解決の見通しをもつことにつながり、学級全体で問題解決に向かうことができました。

事後研では、1次方程式を作ることではできたが、文字を2つ用いた2元1次方程式となっているなど既習の考え方では解くことができない状況になる様子も見られたことから、生徒の困りに焦点を当てた授業を展開すること、また、生徒のつまづきを想定して授業に臨むことの重要性等について確認しました。檜原先生から、自らの授業を振り返り、説明を教師からしてしまいがちであるため、生徒の主体性を引き出せるような授業を今後行っていきたいという強い思いも聞かれました。ぜひ、今後も日々の授業を振り返り、生徒主体の授業づくりに努めてほしいと思います。

